

対北朝鮮

日韓共同支援を提案

駐
日本大使 韓 南北関係進展狙う

【ソウル22日＝森千春】小倉和夫駐韓日本大使は二十一日、読売新聞との会見で、日本と北朝鮮の間で、赤十字会談と国交正常化交渉の予備会談が始まったことを受け、「日本は韓国を通じての対北朝鮮支援を考

えるべきだ」と述べ、日朝関係が進展した場合、南北関係にも好影響を与えるように、医療・漁業・農業などの分野で、日韓が共同で北朝鮮を支援するプロジェクトを検討すべきだとの見解を示した。

小倉大使は、具体的支援案として、韓国にある国連機関「国際ワクチン研究所」を利用して、日本が北朝鮮に医薬品を送ることを挙げた。また、韓国が、減船対象の漁船を北朝鮮に売却を試みていることを指摘し

た上で、①北朝鮮が近海の漁場を日韓に提供する②韓国は北朝鮮に漁船を提供する③日本は漁獲の引き換えに金を払う—といった多角的な形で、漁業分野での三か国協力があり得るとの考えを示した。

小倉大使は、こうした共同プロジェクトが望ましい理由について、「もし北朝鮮に、日韓、日米、米韓を離反させる作戦がある」とす

れば、(対北朝鮮関係で)日本と米国だけが先にいくことはまずい。朝鮮半島の安定と平和のためには、南北の話し合いが重要だ」と述べた。

【ソウル22日＝森千春】来年一月の離任を前に、小倉和夫駐韓日本大使が行ったインタビューの要旨は次の通り。

——金大中政権下での日韓関係の進展は？

「経済面では、六〇、七〇年代は、日本が韓国の経済発展を助ける垂直的協力関係で、八〇年代後半から、ライバルとしての関係が前面に出た。金大中政権になり、パートナーとしての日韓協調の芽が強く出てきた。政治面では、朴正熙時代に土台はできたが、その後、風が吹いたり地震があったりで、きちんと一階ができていなかった。金大中政権で、一階を揺るぎないものにして、ようやく二階ができてくる」

——対北朝鮮政策での日韓協調の内容は？

「日朝・米朝関係が(南北関係より)先行してよいとの政策を韓国が出したことは、日米韓の協調体制を強くしている。『抜け駆けされるのでは』という、さしずめ疑心ではなく、信頼に基づいて協調になっている。日」

小倉・駐韓大使との会見要旨

米韓の協調でソフトな側面とミサイル発射防止の戦術的側面は、非常にうまくいっているが、北朝鮮に対する『抑止』では、日韓の協調はほとんどない。防衛交流を進めて、両国民のアレルギーを解消していかなくてはならない。日本の防衛庁長官や韓国の国防相が、両国間を民間航空機で往復するのは時代遅れではないか。韓国に自衛隊機で来るという言葉を、そろそろ実現するべきではないか」

——日韓関係の発展についての考えを聞きたい。

「世界的な課題で日韓がイニシアチブをとることで、第三国から見える日韓関係になる。世界貿易機関(WTO)の農業政策やダンプ問題などが例だ。また日韓関係が相当成熟した段階では、日韓自由貿易協定構想、(両国間の海底トンネル構想、あるいは宇宙科学など未来を象徴するプロジェクト)を行うことが、日韓両国民、そして第三国のためになる」